令和３年度　幼・保・小連携推進事業

# 第3回　幼・保・小合同研修会

と　き　令和３年７月２８日（水）午後３時～午後４時４０分
ところ　ニコニコこども館　３階　研修室　＜オンライン研修＞

## 「幼保の発達を見通したカリキュラムマネジメント」
## ～スタートカリキュラムの見通しのための視点～

**講師：お茶の水女子大学　基幹研究院人間科学系　教授　浜口順子　先生**

講師の浜口先生は、現職保育者と非専門家とが、協同して学ぶことによってどのような「専門性」を追求できるのかについて着目し、保育者養成のパラダイム変換（価値観を変えること、発想の転換）を社会人プログラムや、学部授業を通して展開されています。

第３回の合同研修会では、「幼保の発達を見通したカリキュラムマネジメント」をテーマに教育講演をいただきました。浜口先生の研究・実践により、新しい教育の考え方としての視点を資料や実践例をもとに、教授いただきました。

【講演より】

1　育成を目指す「資質・能力」の３要素
- ○　子ども達の「生きる力」を育む。
  - ・知識及び技能　・思考力、判断力、表現力　・学びに向かう力、人間性など

2　カリキュラムマネジメントに関する議論を３つに整理
- ○　PDCA（計画→実行→評価→改善）サイクルを回す。
  - ・実践→「省察」（話し合い、記録）→再び実践へ
- ○　教科横断的な取り組み
  - ・幼児教育の５領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の総合性は日常的な保育実践の中で、すでに取り込まれている。
- ○「教育内容」と「条件整備」を一体化して扱う発想。

3　幼小接続を幼・小の両面から促進するもの
- ○「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」
  - ・活動を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園終了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮する。
- ○「非認知能力」への注目（幼児期の遊びなどの数値化しにくい能力）
  - ・友達との遊びや保育士とのふれあい等の教育投資は幼児期に対して行うのが効果的である。

4　幼小をつなぐ総合的な言語活動の取り組み～附属小「サークルタイム」の実践～
- ○　一人一人を生かしつつ、人間関係を学びにつなげている。→「滑らかな接続と適度な段差」

5　幼小の記録の比較（幼小の視点の違い）
- ○「記録をひらく」という方法　（「社会に開かれた教育課程」をめざして）
  - ・幼小間の視点の違いに「気付き」見方が変わると実践が変わる。（次への元気になる）

6　幼小の言葉の違い　（カリキュラム観の違い）
- ○ 幼児教育では「思い」、「関わり」、「寄り添う」、「見守る」等の「和語」を使用することが多い。徐々に小学校低学年でも浸透している。（意図→思い、関係→関わり　等）

【まとめ】
- ○　小学校１年のスタートカリキュラムにおいて、幼児教育段階までに獲得、蓄積している資質能力（探求心、知識・技能、思考力）をフル活用することが重要である。
- ○　記録（書いたり話したり）を通して対話すること（他者とも自己とも）が、カリキュラムマネジメントにおける評価につながっていく。
- ○　幼児教育・小学校教育における文化(言語)の違いを認識し、認め合うことで相互理解が始まる。

【参加者のアンケートから】
- ・「資質・能力」の３要素を大切にして人間的な部分が成長できるように保育したい。
- ・小学校の「サークルタイム」の様子を見て、一人一人がとても集中して、様々なことを学んでいることがわかりました。このような活動が広がっていったらいいのにと強く感じました。
- ・一人一人の遊びや活動に向き合う姿勢や、異なる思いの部分を具体化することで本当の記録になるのではないかと感じた。